

市長コラム

～未来への架け橋～

Vol.9

今年の夏は非常に厳しい暑さとなりました。夏の盛りは過ぎましたが、厳しい残暑が続きますので、市民の皆さんには健康管理にご留意いただきますようお願いいたします。

さて、この夏は、東京オリンピックが開催され、日本勢の躍進に大いにわき上がりました。多くの感動を与えてくれた選手の皆さんには大なる賛辞と心からの感謝を申し上げたいと思います。一方で、首都圏をはじめ国内では、新型コロナウイルスの感染が爆発的に増えており、歓喜とは裏腹に、非常に厳しい現実と向き合っています。

今後、地方への感染拡大も懸念され、これまで以上に感染拡大防止に備えた対策が求められます。市においても、緊張感を持って、感染拡大防止に向けた対策を継続してまいります。一人一人が感染リスクを自覚し、今一度、感染対策の徹底を心掛けていただくようお願いいたします。

★全国からたくさんの応援が届いています

今は住んでいないふるさとや愛着のある自治体を寄付で応援するふるさと納税ですが、当市は令和元年度の寄付額が県内第1位、昨年度が同第2位となっており、近年、たくさんの応援をいただいています。当市では、米やりんご(サンふじ)といった返礼品の人气が高くなっていますが、そのほかにも、果肉まで赤い「赤～いりんご」、五所川原市発祥のりんご「トキ」、金木地区の「馬肉」、市浦地区の「市浦牛」、「ヤマトシジミ」など、魅力的な素材を生かした商品を数多く取りそろえています。

市では、寄付をいただいた方に対し、新たな返礼品や旬な話題などを積極的に発信していますが、各サイトのレビューでは「迅速さ」と「丁寧さ」にも高い評価をいただいています。

寄付をいただいて返礼品をお届けする関係にとどまらず、しっかりと誠意をもって対応することで、リピーターとなっただきながら、ふるさと納税を通じて、当市にさらなる関心や親しみを持ってもらえる関係性を構築し、これをきっかけとして、当市にお出でいただければと考えています。同時に、今後とも生産者や事業者の方と協力しながら、魅力的な特産品の開発に努め、返礼品の充実にも努めていきたいと思ひます。



『赤～いりんごシードルお披露目会』の様子



また、前述しましたが、昨年度は県内第2位の寄付額ということで、約5億8,000万円もの応援を全国からいただいております。これだけ多くの皆さんにファンになっていただいているということは、当市にとって大きな誇りであり、大変喜ばしいことです。

中には五所川原市で生まれ育った方で、ふるさとを離れてもつながっていたい、応援したいという思いで寄付してくださった方もおられます。

子どもの頃のふるさとの「自然」、「まつり」、「文化」など数々の思い出が心のよりどころとなり、いつまでも誇りと愛着を持てる五所川原市であり続けられるよう取り組むとともに、ふるさと納税に限らず、こうした方々との関わりを大切にすることこそが、五所川原市の未来への架け橋になると思っています(先月号8ページ、今月号10ページ掲載)。

★稲わら焼きの防止対策と有効利用に取り組みます

県内有数の稲作地帯である当地域は、これから黄金色の稲穂が実る美しい季節を迎えます。一方で、収穫後の稲わら焼きによる健康、環境への影響や交通障害などが地域の大きな問題となっています。稲わらの処分については、やむなく焼却する場合はほとんどであるかと思ひますが、こうした状況を踏まえ、当市では、稲わらの有効活用と焼却防止に向け、今年度から「稲わら活用 Win-Winモデル事業」を実施します。今年度は、ELM周辺を重点地区として実施し、今後「稲わら焼きゼロ」を目指した取り組みを広げていきたいと思ひます(6、7ページ掲載)。

★災害への備えをお願いします

全国各地で大規模な自然災害が多発しており、先般、むつ市や風間浦村など県内でも大雨による大きな被害が発生しました。こうした状況や新型コロナの感染拡大等を勘案し、9月に当市で実施予定の「令和3年度青森県総合防災訓練」は中止することとなりました。

訓練は中止となりましたが、9月は防災月間ですので、本格的な台風シーズンを迎える前に、再度、自然災害の脅威を心に留め置き、ハザードマップで避難所の場所や危険個所を確認するなど「自らのいのちは自ら守る」ため、日頃からの準備をよろしく願ひます(8、9ページ掲載)。



令和元年10月の『五所川原市総合防災訓練』の様子